

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東北財務局長

【提出日】 平成25年6月14日

【四半期会計期間】 第45期第2四半期(自平成25年2月1日至平成25年4月30日)

【会社名】 東日本ハウス株式会社

【英訳名】 HIGASHI NIHON HOUSE CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 成田和幸

【本店の所在の場所】 岩手県盛岡市長田町2番20号

(注)上記は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は
下記「最寄りの連絡場所」で行っております。

【電話番号】

【事務連絡者氏名】

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区飯田橋四丁目3番8 東日本飯田橋ビル

【電話番号】 (03)5215 9905

【事務連絡者氏名】 常務取締役業務統轄本部長 名取弘文

【縦覧に供する場所】

東日本ハウス株式会社 埼玉支店
(埼玉県さいたま市北区土呂町二丁目22番9)

東日本ハウス株式会社 横浜支店
(神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町三丁目33番地8)

東日本ハウス株式会社 名古屋支店
(愛知県名古屋市中区千代田五丁目11番35号)

株式会社大阪証券取引所
(大阪府大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第2四半期 連結累計期間	第45期 第2四半期 連結累計期間	第44期
会計期間	自 平成23年11月1日 至 平成24年4月30日	自 平成24年11月1日 至 平成25年4月30日	自 平成23年11月1日 至 平成24年10月31日
売上高(百万円)	19,993	21,994	54,631
経常損益(は損失)(百万円)	286	496	4,402
四半期(当期)純損益(は損失)(百万円)	297	519	4,297
四半期包括利益又は包括利益(百万円)	285	544	4,328
純資産額(百万円)	8,839	10,599	10,514
総資産額(百万円)	47,880	49,127	46,441
1株当たり四半期(当期)純損益金額 (は損失)(円)	5.41	11.32	83.49
潜在株式調整後 1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)			82.99
自己資本比率(%)	18.3	21.3	22.4
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,691	1,568	5,800
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	457	772	982
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	5,555	3,135	3,165
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高(百万円)	7,691	6,731	5,937

回次	第44期 第2四半期 連結会計期間	第45期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年2月1日 至 平成24年4月30日	自 平成25年2月1日 至 平成25年4月30日
1株当たり四半期純利益金額(円)	5.02	20.44

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第44期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、四半期純損失を計上しているため、記載しておりません。
また、第45期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の関係会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州の債務危機等の不安材料は残っているものの、新政権の経済政策に対する期待感から、過度の円高の是正や株価の回復が進み、経営環境は改善されつつあります。

住宅業界におきましても、住宅関連政策や景気回復への期待感、消費税増税の影響等により、持家部門の新設住宅着工戸数は、前年同期間比9.8%増と堅調に推移しております。

こうした経営環境の中、当社グループは、増収増益経営の維持に向けて、人員の増強や拠点の整備等を行い、営業体制の強化を図っております。また、地震発生時の揺れを軽減する制振パネルを組み込んだグッドストロング工法を開発し、平成24年11月より販売しております。

以上の結果、売上高は219億94百万円（前年同期比10.0%増）、営業利益は7億61百万円（前年同期比7億62百万円改善）、経常利益は4億96百万円（同7億82百万円改善）、四半期純利益は5億19百万円（同8億16百万円改善）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

住宅事業

住宅事業につきましては、期首受注残高及び期内受注高の増加に伴う完成工事高及び工事進行基準売上高の増加等により、売上高は183億60百万円（前年同期比11.9%増）、営業利益は10億55百万円（同273.9%増）となりました。

なお、業績の先行指標である受注残高につきましては、前年同期末比23億78百万円増と堅調に推移しております。

ホテル事業

ホテル事業につきましては、婚礼需要の回復等により、売上高は32億6百万円（前年同期比1.1%増）となりましたが、業績回復に伴う人件費の増加等により、営業利益は1億87百万円（同1.9%減）となりました。

ビール事業

ビール事業につきましては、売上高は4億27百万円（前年同期比2.4%増）、営業利益は12百万円（同385.8%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比較して7億94百万円増加し67億31百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、15億68百万円（前年同四半期比1億22百万円減）となりました。その主たる要因は、仕入債務の減少16億33百万円によるものであります。

前第2四半期連結累計期間と比較して、減損損失の増加、仕入債務の減少額の減少等により収入が増加し、売上債権、未成工事支出金、その他のたな卸資産の増加額の増加等により支出が増加しております。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、7億72百万円（前年同四半期比3億14百万円増）となりました。その主たる要因は、有形及び無形固定資産の取得による支出7億46百万円によるものであります。

前第2四半期連結累計期間と比較して、有形及び無形固定資産の取得による支出が増加しております。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により獲得した資金は、31億35百万円（前年同四半期比24億20百万円減）となりました。その主たる要因は、短期借入金の純増額41億79百万円、長期借入金の返済による支出9億23百万円によるものであります。

前第2四半期連結累計期間と比較して、借入金の増加による収入が減少しております。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は、3百万円であります。なお、この金額は外部に委託した試験費用のみであり、研究開発部門における人件費及び諸経費等は含まれておりません。また、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第2四半期連結累計期間に著しい変動があった設備は、次のとおりであります。

除却及び新設

平成25年5月16日の取締役会で屋内プール施設「けんじワールド」を平成25年8月をもって廃止・解体し、跡地にガーデニング公園を新設する事を決議いたしました。

なお、当第2四半期連結累計期間において減損損失を計上しております。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	93,821,000
計	93,821,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年4月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年6月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	45,964,842	45,964,842	(株)大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株 (注)
計	45,964,842	45,964,842		

(注) 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年2月1日～ 平成25年4月30日		45,964,842		3,873		20

(6) 【大株主の状況】

平成25年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
東日本ハウス社員持株会	東京都千代田区飯田橋4丁目3番8	4,201	9.14
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)(注)1	東京都港区浜松町2丁目11番3号	4,131	8.99
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)(注)1	東京都中央区晴海1丁目8番11号	3,804	8.28
中村 功	岩手県盛岡市	2,495	5.43
東友会・東盛会持株会	東京都千代田区飯田橋4丁目3番8	1,427	3.10
(株)みずほ銀行	東京都千代田区内幸町1丁目1番5号	1,323	2.88
みずほ証券(株)	東京都千代田区大手町1丁目5番1号	969	2.11
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)(注)2	オーストラリア・シドニー (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	870	1.89
ステイトストリートバンクアンドトラ ストカンパニー (常任代理人 (株)みずほコーポレート 銀行決済営業部)(注)2	アメリカ・ボストン (東京都中央区月島4丁目16番13号)	847	1.84
野村信託銀行(株)(信託口)(注)1	東京都千代田区大手町2丁目2番2号	812	1.77
計		20,880	45.43

(注) 1 各社の所有株式は、全て各社が証券投資信託等の信託を受けている株式であります。

2 主として欧米の機関投資家の所有する株式の保管業務を行うとともに、当該機関投資家の株式名義人となっております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 94,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 45,617,000	45,617	
単元未満株式	普通株式 253,842		
発行済株式総数	45,964,842		
総株主の議決権		45,617	

(注) 1 単元未満株式には、当社所有の自己株式337株が含まれております。

2 完全議決権株式(その他)の欄には、証券保管振替機構名義の株式8,000株(議決権8個)が含まれております。

【自己株式等】

平成25年4月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東日本ハウス(株)	岩手県盛岡市長田町2番20号	94,000		94,000	0.2
計		94,000		94,000	0.2

2 【役員状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年2月1日から平成25年4月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年11月1日から平成25年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、優成監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	6,516	7,311
受取手形・完成工事未収入金等	1,232	1,353
未成工事支出金	572	1,121
販売用不動産	4,395	5,192
商品及び製品	145	154
仕掛品	14	18
原材料及び貯蔵品	216	307
繰延税金資産	1,861	1,873
その他	872	754
貸倒引当金	3	3
流動資産合計	15,823	18,083
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	42,848	42,855
機械、運搬具及び工具器具備品	5,752	5,833
土地	11,210	11,220
リース資産	1,753	1,911
建設仮勘定	34	501
減価償却累計額及び減損損失累計額	33,429	34,592
有形固定資産合計	28,168	27,729
無形固定資産	643	573
投資その他の資産		
投資有価証券	35	48
長期貸付金	324	285
繰延税金資産	101	1,059
破産更生債権等	7	7
その他	1,663	1,663
貸倒引当金	333	329
投資その他の資産合計	1,798	2,735
固定資産合計	30,610	31,038
繰延資産		
社債発行費	7	5
繰延資産合計	7	5
資産合計	46,441	49,127

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年4月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	5,910	4,318
短期借入金	2,029	6,208
1年内償還予定の社債	120	120
1年内返済予定の長期借入金	2,480	2,799
未払法人税等	211	95
未成工事受入金	2,209	3,269
完成工事補償引当金	256	263
賞与引当金	686	626
固定資産解体引当金	-	303
その他	3,140	2,546
流動負債合計	17,045	20,550
固定負債		
社債	195	135
長期借入金	13,877	13,104
リース債務	681	639
繰延税金負債	44	33
退職給付引当金	2,159	2,134
役員退職慰労引当金	507	537
資産除去債務	279	285
その他	1,136	1,108
固定負債合計	18,881	17,977
負債合計	35,927	38,527
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,873	3,873
資本剰余金	20	21
利益剰余金	6,541	6,602
自己株式	18	19
株主資本合計	10,417	10,477
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	12
繰延ヘッジ損益	9	6
その他の包括利益累計額合計	9	5
少数株主持分	106	116
純資産合計	10,514	10,599
負債純資産合計	46,441	49,127

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年11月1日 至平成24年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年11月1日 至平成25年4月30日)
売上高	19,993	21,994
売上原価	12,491	13,698
売上総利益	7,502	8,296
販売費及び一般管理費	1 7,502	1 7,534
営業利益又は営業損失()	0	761
営業外収益		
受取利息	3	2
持分法による投資利益	15	-
賃貸料収入	5	1
臨時特例企業税還付金等	-	13
雑収入	33	31
営業外収益合計	58	48
営業外費用		
支払利息	330	279
雑支出	13	34
営業外費用合計	344	313
経常利益又は経常損失()	286	496
特別利益		
受取補償金	32	58
負ののれん発生益	2	-
特別利益合計	34	58
特別損失		
固定資産除却損	6	28
減損損失	20	905
その他特別損失	0	3
特別損失合計	28	937
税金等調整前四半期純損失()	279	382
法人税、住民税及び事業税	50	72
法人税等調整額	40	983
法人税等合計	9	910
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	289	528
少数株主利益	8	9
四半期純利益又は四半期純損失()	297	519

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年11月1日 至平成24年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年11月1日 至平成25年4月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	289	528
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	12
繰延ヘッジ損益	1	2
その他の包括利益合計	3	15
四半期包括利益	285	544
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	294	534
少数株主に係る四半期包括利益	8	9

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年11月1日 至平成24年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年11月1日 至平成25年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	279	382
減価償却費	636	652
減損損失	20	905
貸倒引当金の増減額(は減少)	2	0
賞与引当金の増減額(は減少)	182	59
完成工事補償引当金の増減額(は減少)	11	6
退職給付引当金の増減額(は減少)	28	25
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	60	29
受取利息及び受取配当金	3	2
支払利息	330	279
受取補償金	32	58
持分法による投資損益(は益)	15	-
負ののれん発生益	2	-
固定資産除売却損益(は益)	6	28
売上債権の増減額(は増加)	343	86
未成工事支出金の増減額(は増加)	259	548
その他のたな卸資産の増減額(は増加)	484	901
仕入債務の増減額(は減少)	2,244	1,633
未成工事受入金の増減額(は減少)	840	1,059
未払消費税等の増減額(は減少)	119	186
その他	83	258
小計	1,320	1,181
利息及び配当金の受取額	39	2
利息の支払額	330	275
補償金の受取額	32	58
法人税等の支払額	113	173
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,691	1,568
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	79	582
定期預金の払戻による収入	79	582
有形及び無形固定資産の取得による支出	456	746
有形及び無形固定資産の売却による収入	4	12
貸付金の回収による収入	11	0
子会社の自己株式の取得による支出	1	-
その他	15	38
投資活動によるキャッシュ・フロー	457	772
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	6,245	4,179
長期借入れによる収入	1,600	470
長期借入金の返済による支出	1,310	923
セールアンドリースバックによる収入	66	147
リース債務の返済による支出	170	224
社債の償還による支出	60	60
優先株式の取得による支出	553	-
配当金の支払額	261	452
その他	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,555	3,135
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,406	794
現金及び現金同等物の期首残高	4,284	5,937
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,691	6,731

【会計方針の変更等】

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社グループは、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年11月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

また、セグメント情報に与える影響も軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

下記の住宅購入者等に対する金融機関の融資について保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成24年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年4月30日)
住宅購入者等	4,283百万円	3,057百万円

なお住宅購入者等に係る保証の大半は、保証会社が金融機関に対し保証を行うまでのつなぎ保証であります。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主な内訳は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年11月1日 至平成24年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年11月1日 至平成25年4月30日)
従業員給料手当	2,626百万円	2,667百万円
退職給付費用	110	105
賞与引当金繰入額	278	441
役員退職慰労引当金繰入額	60	29

2 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自平成23年11月1日至平成24年4月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成24年11月1日至平成25年4月30日)

当社グループは、通常の営業形態として、季節的変動要因により、第1四半期連結会計期間の完成工事高は低水準となり、第4四半期連結会計期間の完成工事高は高水準となる傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年11月1日 至平成24年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年11月1日 至平成25年4月30日)
現金預金勘定	8,271百万円	7,311百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	187	187
担保差入定期預金	390	390
別段預金	2	2
現金及び現金同等物	7,691	6,731

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年11月1日至平成24年4月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年1月26日 定時株主総会	普通株式	183	4	平成23年10月31日	平成24年1月27日	利益剰余金
平成24年1月26日 定時株主総会	A種優先株式	40	4	平成23年10月31日	平成24年1月27日	利益剰余金
平成24年1月26日 定時株主総会	B種優先株式	40	80	平成23年10月31日	平成24年1月27日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成24年11月1日至平成25年4月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年1月29日 定時株主総会	普通株式	458	10	平成24年10月31日	平成25年1月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計
 期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月4日 取締役会	普通株式	229	5	平成25年4月30日	平成25年7月10日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年11月1日至平成24年4月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	住宅事業	ホテル事業	ビール事業	計		
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	16,403	3,172	417	19,993		19,993
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	14	23	24	62	62	
計	16,418	3,195	441	20,055	62	19,993
セグメント利益又は損失()	282	190	2	475	476	0

(注)1.セグメント利益又は損失の調整額 476百万円には、セグメント間取引消去 22百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 453百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年11月1日至平成25年4月30日)

1.報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	住宅事業	ホテル事業	ビール事業	計		
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	18,360	3,206	427	21,994		21,994
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	22	25	26	75	75	
計	18,382	3,232	453	22,069	75	21,994
セグメント利益	1,055	187	12	1,255	493	761

(注)1.セグメント利益の調整額 493百万円には、セグメント間取引消去 34百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 458百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2.報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年11月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、セグメント情報に与える影響は軽微であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ホテル事業」セグメントにおいて、屋内プール施設「けんじワールド」の固定資産及び解体費用について、減損損失を計上いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は当第2四半期連結累計期間においては905百万円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年11月1日 至平成24年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年11月1日 至平成25年4月30日)
1株当たり四半期純利益又は四半期純損失金額 ()	5円41銭	11円32銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益又は四半期純損失金額 () (百万円)	297	519
普通株主及び普通株式と同等の株式に帰属しない金額 (百万円) (注1)	4	
普通株式及び普通株式と同等の株式に係る四半期純利益又は四半期純損失金額 () (百万円)	302	519
普通株式及び普通株式と同等の株式の期中平均株式数の種類別の内訳		
普通株式 (株)	45,867,701	45,871,204
A種優先株式 (株)	10,000,000	
普通株式及び普通株式と同等の株式の期中平均株式数 (株)	55,867,701	45,871,204

(注) 1. B種優先株式に係る累積未払配当金額であります。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第2四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失を計上しているため、記載しておりません。

また、当第2四半期連結累計期間は、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

子会社の設立

当社は、平成25年5月16日開催の取締役会において、下記のとおり新たに子会社を設立することを決議し、実行いたしました。

- (1) 会社名 : 株式会社フラワー & ガーデンカンパニー
- (2) 代表者 : 代表取締役社長 沼崎 真吾
- (3) 所在地 : 岩手県岩手郡雫石町鶯宿第10地割64番地1
- (4) 設立年月日 : 平成25年5月17日
- (5) 主な事業の内容 : ガーデニング公園の経営、各種イベントの企画運営及び請負
- (6) 事業年度の末日 : 10月31日
- (7) 資本金の額 : 1,000万円
- (8) 株主構成 : 東日本ハウス株式会社 (100%出資)

2【その他】

第45期（平成24年11月1日から平成25年10月31日）中間配当について、平成25年6月4日開催の取締役会において、平成25年4月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	229百万円
1株当たりの金額	5円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成25年7月10日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 6月13日

東日本ハウス株式会社
取締役会 御中

優成監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 加藤 善孝 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 須永 真樹 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小野 潤 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東日本ハウス株式会社の平成24年11月1日から平成25年10月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年2月1日から平成25年4月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年11月1日から平成25年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東日本ハウス株式会社及び連結子会社の平成25年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。